

どうする日本の漁業

浜が唱える「業」再生の途 ⑥

福島全良・福島漁業専務(上)

「漁獲物の付加価値を向上させるために、欧州型HACCP対応市場」



「漁獲物の付加価値を向上させるために、欧州型HACCP対応市場」

「漁獲物の付加価値を向上させるために、欧州型HACCP対応市場」

用する場合は、水産業界の重要な課題だ。

八戸を欧州型HACCP対応市場へ

輸出など新たなビジネスモデル構築を

品質管理を世界で最も厳しい欧州連合(EU)の水産まで一気に引き上げることに、「八戸ブランド」を確立、製品の付加価値アップなど地域全体で水産業の底上げを図ることだ。また、漁船漁業や市場、加工業など関連産業の省人・省力化につながる「二気通貫型事業」でもある。福島氏は今年4月に東京・永田町の自民党本部で、国内水産業の活性化に向けた同提言を発表、自民党水産関係議員らの関心を集めた。

福島氏が提案する欧州型市場づくりの狙いは、

八戸市場が欧州型市場となった場合、需要伸長が見込まれる輸出などさまざまな活性化策が想定される。福島氏は「現在、日本の魚は中国経由でEUに輸出されているが、八戸港から直接輸出し、高鮮度・高付加価値原料が販売できる。世界に通用する市場づくりが基本だ」と熱く語る。(東北支社・小林康二)